

目次

1.	第10回九州大学大型計算機センター 計算機科学研究集会の開催について	2
2.	FORTRAN 77 EX/VP実行結果異常のお知らせ	3
3.	FTPサーバの公開について (MSP)	4
4.	FTPクライアントの公開について (MSP)	7
5.	MSPコマンドの廃止について (UXP)	11
6.	NVTサーバの端末クラス変更機能の公開について	12
7.	PHIGSCL, PHIGSGOコマンドの追加について (MSP)	13
8.	PKSCL, PKSGOコマンドの追加について (MSP)	15
9.	GDPコマンドの追加について (MSP)	18
10.	汎用統計パッケージANALYSTの SURVIVALコマンドの機能追加について (MSP)	19
11.	1992年度(平成4年度)ライブラリプログラム開発計画について	20
12.	特殊機器利用説明会の開催について	21

1. 第10回九州大学大型計算機センター計算機科学研究集会の開催について

標記集会を次の要領で開催しますので、ふるってご参加ください。

九州大学大型計算機センター
第10回計算機科学研究集会プログラム

日時：平成4年11月27日(金) 9:50～17:00

場所：大型計算機センター多目的講習室

開会の辞 (9:50～10:00) 牛島 和夫 (九州大学大型計算機センター)

講演 (10:00～11:00) 座長 松尾 文碩 (九州大学工学部)

1. 非線形楕円型境界値問題の解に対する精度保証付き数値計算法
渡部 善隆 (九州大学大型計算機センター)
中尾 充宏 (九州大学理学部)

2. 拡散過程に付随した拡散方程式の数値計算法について
竹生 政資 (九州工業大学情報科学センター)
飯塚 勝 (筑紫女学園短期大学一般教育)

————— 休憩 (11:00～11:10) —————

講演 (11:10～12:10) 座長 雨宮 真人 (九州大学大学院総合理工学研究科)

3. 1991年台風19号による山口地方の塩害の衛星リモートセンシング調査
後藤 恵之輔 (長崎大学工学部)
大田 哲男 (長崎県庁)
森 正寿 (近畿大学九州工学部)

4. 多時期衛星データでみる雲仙・普賢岳火山災害の推移
後藤 恵之輔 (長崎大学工学部)
蒲川 俊浩 (大村工業高等学校)
湯藤 義文, 吉本 雅利 (長崎大学工学部)

————— 昼休み (12:10～13:30) —————

講演 (13:30～15:00) 座長 有田 五次郎 (九州工業大学工学部)

5. 連合データベースにおける永続データの管理法
木實 新一, 古川 哲也 (九州大学大型計算機センター)
6. 英文科学技術文献抄録文における動詞の決定
竹田 正幸, 楠本 典孝, 松尾 文碩 (九州大学工学部)
7. 正規パターン上の決定木の学習アルゴリズムによるタンパク質データからの知識獲得
宮野 悟, 篠原 歩, 有川 節夫 (九州大学理学部)
下園 真一, 篠原 武 (九州工業大学情報工学部)
久原 哲 (九州大学大学院農学研究科)

————— 休憩 (15:00～15:20) —————

特別講演 (15:20～16:50)

二重指数関数型数値積分公式 – ガウス公式を超える汎用で頑強な公式 –

森 正武 (東京大学工学部)

閉会の辞 (16:50～17:00) 牛島 和夫 (九州大学大型計算機センター)

問合せ先：〒812 福岡市東区箱崎6-10-1 九州大学大型計算機センター
研究開発部 古川哲也 (Tel. 092-641-1101 内線2510)

furukawa@cc.kyushu-u.ac.jp

2. FORTRAN 77 EX/VP 実行結果異常のお知らせ

FORTRAN77 EX コンパイラ (MSP) に一部障害があったことが判明しました。障害は、MSP と VP で共用しているライブラリ (FORTRAN77 EX が提供するライブラリ) で発生するものです。ただし、障害の影響は VP 側のみ で発生します。従って、障害に対して影響のある範囲はベクトルプロセッサ VP2600 上での実行結果に限定されます。ただし条件に該当しても、障害発生の可能性は極めて少ないことが予想されます。

また、バッチジョブでカタログドプロシジャ FORT を用いて VP=NO と指定され、翻訳・実行される場合は、FORTRAN77 EX コンパイラが呼び出されるため、実行結果の異常は起きません。

発生条件、障害のあった期間等は、次のとおりです。

障害に該当する場合、期間中に作成したロードモジュールは再作成する必要があります。お心あたりの方は、ライブラリ室までお問合せ下さい。

なお、障害は 1992年8月31日(月)に修正済みです。

記

【現象と条件】

以下の条件を全てみたすとき、実行時に実行結果が異なることがあります。従って、条件を1つでも満たさなければ、障害は起きません。

- (1) 翻訳オプションで VP が指定されている。かつ
- (2) ソースプログラム中にベクトル化可能な文が一つ以上ある。かつ
- (3) (2) のソースプログラムのいずれかの文において、コンパイラが生成したデータの有効範囲 (データの定義から参照までの間) が5個以上重なっている。かつ
- (4) (3) の文より後ろのベクトル化可能な文で、コンパイラが生成したデータの値をスカラレジスタのオペランドに持つベクトル命令がある。

[障害のあった期間]

1991年11月11日 ~ 1992年8月29日

(ライブラリ室 内線2509)

e-mail:f70029a@kyu-cc. cc. kyushu-u. ac. jp

3. FTPサーバの公開について (MSP)

92年10月19日(月)から、MSP上でFTP (File Transfer Protocol) サーバを公開します。FTPはLAN (Local Area Network) で接続されたワークステーション間のファイル転送に広く用いられているプロトコルです。MSPのFTPサーバはUXPやワークステーションからのファイル転送要求に対して、MSPデータセットとのファイル転送機能を提供します。以下にUXPからの使用例を示します。

1. 使用例

```
kyu-cc% ftp                UXPのFTPクライアントを起動
ftp> open 133.5.9.2         MSPに接続要求
Connected to 133.5.9.2.
220 Service ready for new user
Name (kyu-msp:a79999a): a79999a    MSPのユーザID
331 User name okay, need password
Password: _____            MSPのパスワード
230 User logged in, proceed
ftp> pwd                    MSPの現ディレクトリ
251 "/A79999A" is current directory  ユーザIDがホームディレクトリになります
ftp> ls                      MSPのデータセット一覧
200 Command okay
150 Open data connection
#EXAM1.FORT
AAA.FORT
ASCII.TEXT
PO.DATA/                       区分データセットはディレクトリとみなされます。
PO.TEXT/
ftp> dir                      MSPのデータセット属性一覧
200 Command okay
150 Open data connection
-rw-  FB      80  23440  PS   91.12.25 #EXAM1.FORT
-rw-  FB      80  23440  PS   92.01.09 AAA.FORT
-rw-  VB     255  23440  PS   91.07.13 ASCII.TEXT
drwx  FB      80   3120  PO   92.06.24 PO.DATA/
drwx  VB     255   3120  PO   92.09.16 PO.TEXT/
ftp> lcd                      UXPの現ディレクトリ
Local directory now /home/usr9/a79999a
ftp> !ls -x                   UXPのファイル一覧
a.c      a.out      mbox      test.data
ftp> ascii                    転送タイプをASCIIに設定
200 Command okay
ftp> type                      転送タイプの表示
```

```

Using ascii mode to transfer files.
ftp> get ascii.text                M S P のASCII.TEXTをU X P に転送
200 Command okay
150 File status okay;about to open data connection
226 File transfer complete
local: ascii.text remote: ascii.text
1248 bytes received in 0.3 seconds (4.1 Kbytes/s)
ftp> mget *.fort                    M S P の複数ファイルをU X P に転送
mget #EXAM1.FORT? _                    転送の確認
200 Command okay
150 File status okay;about to open data connection
226 File transfer complete
local: #EXAM1.FORT remote: #EXAM1.FORT
80000 bytes received in 9.5 seconds (8.2 Kbytes/s)
mget AAA.FORT? _                       転送の確認
200 Command okay
150 File status okay;about to open data connection
226 File transfer complete
local: #EXAM1.FORT remote: #EXAM1.FORT
80080 bytes received in 9.8 seconds (8 Kbytes/s)
ftp> !ls -x                          U X P のファイル一覧
#EXAM1.FORT #AAA.FORT  a.c      a.out    mbox     test.data
ftp> cd po.data                      M S P の現ディレクトリを区分データセットに変更
200 Command okay
ftp> pwd                                M S P の現ディレクトリ
251 "/A70015B/PO.DATA" is current directory
ftp> ls -x                              PO.DATAのメンバー一覧
200 Command okay
150 Open data connection
AA      BB
ftp> lcd test.data                    U X P のディレクトリを変更
Local directory now /home/usr9/a79999a/test.data
ftp> !ls -x                              U X P のファイル一覧
test1   test2
ftp> binary                              転送タイプB I N A R Y
200 Command okay
ftp> type                                転送タイプの表示
Using binary mode to transfer files.
ftp> mput *                             U X P ファイルをM S P に転送
mput test1? _                            転送の確認
200 Command okay
150 File status okay;about to open data connection
226 File transfer complete

```

```

local: test1 remote: test1
81 bytes sent in 1e-06 seconds (7.9e+04 Kbytes/s)
mput test2? _                転送の確認
200 Command okay
150 File status okay;about to open data connection
226 File transfer complete
local: test2 remote: test2
81 bytes sent in 0.03 seconds (2.6 Kbytes/s)
ftp> bye                      F T P の終了
221 Service closing CONTROL connection
kyu-cc%
```

2. 利用上の注意

- 日本語を含むファイルの転送は、テキストモードではできません。バイナリモードで転送した後、TSSのCHGCODEコマンドでコード変換して下さい。

- MSPとUNIXでファイル転送を行う場合、MSPとUNIXのファイルシステムの違いから、MSPのデータセット名は仮想的にUNIXのファイル名に疑似します。

順編成データセット'ユーザID.AAA.DATA'は/ユーザID/AAA.DATA

区分編成データセット'ユーザID.BBB.FORT(PROG1)'は/ユーザID/BBB.FORT/PROG1とみなされます。

- UNIXファイルをMSPデータセットに転送する場合、指定したMSPデータセットが存在しない場合は、新規にデータセットを獲得します。獲得するデータセット属性はシステム設定値を採用します。システム設定値は

```
ftp> quote site attrf display
```

```
200 SP(20,10) DI(5) T REC(VB) LR(255) BL(23440) U(PUB) NOCONT REL
```

で表示されます。設定値の変更は

```
ftp> quote site attrf set .....パラメタ.....で変更できます。
```

コマンドの構文は

```
ftp> remotehelp site
```

```
214-SYNTAX: SITE <sp> ATTRF <sp> SET
```

```
        [<sp> SP(space1[, space2]) <sp> B(avblocks)|T|CY]
```

```
        [<sp> DI(directory-block)]
```

```
        [<sp> REC(recfm) <sp> LR(lrec1) <sp> BL(blks)]
```

```
        [<sp> V(volume)] [<sp> U(unit-name)]
```

```
        [<sp> CONT|NOCONT] [<SP>REL|NOREL]
```

```
    : SITE <sp> ATTRF <sp> RESET
```

```
    : SITE <sp> ATTRF <sp> DISPLAY [<SP> VFILE(vfile-name)]
```

```
214 SITE display end
```

で表示できます。

(ネットワーク掛 内線2543)

4. FTPクライアントの公開について (MSP)

92年10月19日(月)から、MSP上でFTPクライアントを公開します。MSPのFTPクライアントは、UXPやワークステーションなど(以後、「相手ホスト」という)のFTPサーバと連携し、MSPのデータセットと相手ホストファイル間とのファイル転送機能を提供します。FTPクライアントはTSSのFTPコマンドで起動されます。起動後、FTPはプロンプト'FTP'を出力しサブコマンドモードになります。この状態で相手ホストへの接続やファイル転送などの指示を行います。

1. FTPコマンド

コマンド名	オペランド
FTP	[HOST (相手ホスト識別名)]

相手ホスト識別名として、以下のものが指定できます。

KYU-CC : UXPのホスト名です。

IPアドレス : 相手ホストのIPアドレスをドット表記で指定します。

UXPの場合は133.5.9.1です。

ドメイン名 : 相手ホストのドメイン名を指定します。

UXPの場合はkyu-cc.cc.kyushu-u.ac.jpです。

2. FTPクライアントのサブコマンド

サブコマンド名	オペランド
CANCEL	[{要求識別番号 ALL}]
CD	相手ホストのディレクトリ名
CDUP	なし
CONVERT	コード変換種別 IN(入力データセット名) OUT(出力データセット名)
DELETE	相手ホストのファイル名
DIR	[相手ホストのディレクトリ名]
END	なし
HELP	[サブコマンド名]
HOST	{ kyu-cc IPアドレス ドメイン名 }
INQUIRE	[{要求番号 ALL}]
LS	[相手ホストのディレクトリ名]
MKDIR	相手ホストのディレクトリ名

MRECV	[IN(相手ホストのディレクトリ名)] OUT(MSPのデータセット名) [TYPE(BINARY TEXT)]
MSEND	IN(MSPのデータセット名) [OUT(相手ホストのディレクトリ名)] [TYPE(BINARY TEXT)]
PWD	なし
RCV	IN(相手ホストのファイル名) OUT(MSPのデータセット名) [TYPE(BINARY TEXT)]
RENAME	旧ファイル名 新ファイル名
RMD	相手ホストのディレクトリ名
SEND	IN(MSPのデータセット名) OUT(相手ホストのディレクトリ名) [TYPE(BINARY TEXT)]
USER	NAME (相手ホストのユーザ名)

サブコマンドの説明

- CANCEL : ファイル転送を取り消す。
- CD : 相手ホストの作業ディレクトリを変更する。
- CDUP : 相手ホストの作業ディレクトリを親ディレクトリに変更する。
- CONVERT : データセット内のテキストをコード変換する。
- DELETE : 相手ホストのファイルを削除する。
- DIR : 相手ホストのディレクトリ詳細情報を表示する。
- END : FTPコマンドを終了する。
- HELP : サブコマンド一覧やサブコマンドの使用方法を表示する。
- HOST : 相手ホストに接続する。
- INQUIRE : ファイル転送の状態を表示する。
- LS : 相手ホストのファイル一覧を表示する。
- MKDIR : 相手ホストに新しいディレクトリを作成する。
- MRECV : 相手ホストの複数ファイルをMSPの区分データセットのメンバあるいは複数の順データセットに転送する。
- MSEND : MSPの区分データセットの複数メンバまたは複数の順データセットを相手ホストに転送する。
- PWD : 相手ホストの現在の作業ディレクトリを表示する。
- RCV : 相手ホストのファイルをMSPのデータセットに転送する。
- RENAME : 相手ホストのファイル名を変更する。
- RMD : 相手ホストのディレクトリを削除する。
- SEND : MSPのデータセットを相手ホストに転送する。
- USER : 相手ホストのユーザ名を変更する。

・コード変換種別 :

- A T O E : ASCIIからEBCDICに変換 E T O A : EBCDICからASCIIに変換
- J T J 7 8 : JEFからJIS78に変換 J 7 8 T J : JIS78からJEFに変換

J T J 8 3 : JEFからJIS83に変換	J 8 3 T J : JIS83からJEFに変換
J T E U C : JEFからEUCに変換	E U C T J : EUCからJEFに変換
J T S J S : JEFからシフトJISに変換	S J S T J : シフトJISからJEFに変換

・ワイルドカード:

複数ファイルの転送はM R E C V, M S E N Dを用いますが, 転送の対象となる複数の順データセット名や区分データセットの複数メンバ名はワイルドカード(*や?)で対象を絞り込むことができます。*は0文字以上の文字列と置き換え, ?は1文字の置き換えです。

例えばA79999Aの利用者が所有するデータセットが以下のものだとします。

```
A79999A. ABC. FORT
A79999A. DEF. FORT
A79999A. GHI. FORT
A79999A. ABC. DATA(MEM1)(MEM2)(MEM3)(MEMBER)
```

データセット名として*. FORTを指定した場合の対象データセットは

```
A79999A. ABC. FORT
A79999A. DEF. FORT
A79999A. GHI. FORT
```

メンバ名としてABC. FORT(M*)を指定した場合の対象メンバは

```
A79999A. ABC. DATA(MEM1)(MEM2)(MEM3)(MEMBER)
```

メンバ名としてABC. FORT(MEM?)を指定した場合の対象メンバは

```
A79999A. ABC. DATA(MEM1)(MEM2)(MEM3)
```

になります。なお, 次のような指定は禁止されています。

- ・ユーザ I D A79999Aにワイルドカードは指定できません。
- ・データセット名に指定できるワイルドカードは*のみです。?は指定できません。
- ・データセット名を構成する修飾子のうち, *は一つの修飾子にだけに指定できます。*. *の指定はできません。
- ・区分データセット名にワイルドカードは指定できません。
- ・区分データセットのメンバ名に指定するワイルドカードに制限はありません。

3. 使用例

```
READY
ftp                                FTPクライアントの起動
FTP
host kyu-cc                          UXPに接続
KGT10104A 相手ホストシステムのユーザ名を入力してください。
a79999a                                UXPのユーザID
KGT10101A パスワードを入力してください。
FTP                                    UXPのパスワード
FTP
pwd                                    UXPの作業ディレクトリを表示
KGT10500I 257 "/home/usr9/a79999a" is current directory.
FTP
ls -x                                  UXPのファイル一覧
KGT10501I 相手ホストシステムからの複数メッセージを表示します。
abc.fort letter s1 s2 test.fort
FTP
```

dir U X Pファイルの詳細情報一覧

KGT10501I 相手ホストシステムからの複数メッセージを表示します。

total 18151

```
drwx----- 2 a79999a user      512 Sep 17 17:08 abc.fort
-rw----- 1 a79999a user     2157 Sep 16 10:56 letter
-rw----- 1 a79999a user     1073 Sep 16 10:58 s1
-rw----- 1 a79999a user     1200 Sep 29 09:34 s2
-rw----- 1 a79999a user    13209 Mar 10 15:42 test.fort
```

FTP

recv in(test.fort) out(test.fort) U X PファイルをM S Pに転送

KGT10013I A79999A.TEST.FORTのデータセットを新規に作成しました。

KGT10002I A79999A.TEST.FORTの転送を受け付けました。要求識別番号は3です。

KGT10032I ファイル転送を開始します。

KGT10003I A79999A.TEST.FORTの転送が完了しました。要求識別番号は3です。

13879 バイトを1秒で転送しました(13879 BYTES/S)。

FTP

mrecv in(s*) out(s.text) U X Pの複数ファイルをM S Pに転送

KGT10013I A79999A.S.TEXTのデータセットを新規に作成しました。

KGT10002I A79999A.S.TEXT(S1)の転送を受け付けました。要求識別番号は3です。

KGT10032I ファイル転送を開始します。

KGT10003I A79999A.S.TEXT(S1)の転送が完了しました。要求識別番号は3です。

1107 バイトを1秒で転送しました(1107 BYTES/S)。

KGT10002I A79999A.S.TEXT(S2)の転送を受け付けました。要求識別番号は3です。

KGT10032I ファイル転送を開始します。

KGT10003I A79999A.S.TEXT(S2)の転送が完了しました。要求識別番号は3です。

1246 バイトを1秒で転送しました(1246 BYTES/S)。

FTP

x_listc

M S Pのデータセット一覧

IN CATALOG:SYS1.EDFUCAT1

A79999A.ABC.DATA

A79999A.ABC.FORT

A79999A.DEF.FORT

A79999A.GHI.FORT

A79999A.S.TEXT

A79999A.TEST.FORT

FTP

x_listd abc.data m

ABC.DATAのメンバー一覧

A79999A.ABC.DATA

--RECFM=LRECL-BLKSIZE=DSORG

FB 80 23440 PO

--VOLUMES--

PUB115

--MEMBERS--

MEM1

MEM2

MEM3

MEMBER

FTP

mkdir abc.data

U X Pに新ディレクトリを作成

KGT10500I 257 MKD command successful.

FTP

cd abc.data

U X Pの作業ディレクトリを変更

KGT10500I 250 CWD command successful.

FTP

pwd

U X Pの現在の作業ディレクトリ

KGT10500I 257 "/home/usr9/a79999a/abc.data" is current directory.

FTP

```

msend in(abc.data)                                MSPの区分データセットをUXPへ転送
KGT10002I A79999A,ABC.DATA(MEM1)の転送を受け付けました。要求識別番号は3です。
KGT10032I ファイル転送を開始します。
KGT10003I A79999A,ABC.DATA(MEM1)の転送が完了しました。要求識別番号は3です。
13951 バイトを1秒で転送しました(13951 BYTES/S)。
:
:
:
FTP
ls -x                                             UXPのファイル一覧
KGT10501I 相手ホストシステムからの複数メッセージを表示します。
MEM1      MEM2      MEM3      MEMBER
FTP
cdup                                             作業ディレクトリを親ディレクトリに変更
KGT10500I 250 CWD command successful.
FTP
pwd
KGT10500I 257 "/home/usr9/a79999a" is current directory.
FTP
recv in(letter) out(letter.text) type(binary)   バイナリ転送
KGT10002I A79999A,LETTER.TEXTの転送を受け付けました。要求識別番号は3です。
KGT10032I ファイル転送を開始します。
KGT10003I A79999A,LETTE.TEXTの転送が完了しました。要求識別番号は3です。
2157 バイトを1秒で転送しました(2157 BYTES/S)。
FTP
convert euctj in(letter.text) out(tegami.text)  日本語テキストのコード変換
KGT13001I CODE CONVERT STARTS.
KGT13002I CODE CONVERT ENDS.
FTP
end                                             FTPの終了
READY

```

(ネットワーク掛 内線2543)

5. MSPコマンドの廃止について (UXP)

92年10月31日(土)をもって標記コマンドを廃止します。MSPコマンドは89年11月20日からテスト運用を開始し、UXPからプロトコル変換装置を経由してMSPを利用する機能を提供してきました。当時はMSPのTCP/IP環境が未整備であったため、UXPからTSSの利用やファイル転送を利用する唯一の方法でした。その後、MSPのTCP/IP環境が順次整備され、92年5月11日からTELNETサーバ(TSSの利用)の運用開始、92年10月19日からはFTPサーバ(ファイル転送)の運用を開始し、MSPコマンドで提供していた機能が、UXPやワークステーションから直接利用できるようになっていきます。今後は、TELNETやFTPでMSPをご利用下さい。

(ネットワーク掛 内線2543)

6. NVT サーバの端末クラス変更機能の公開について

92年10月19日(月)から、N1経由で本センターMSPに接続している端末の端末クラスを動的に変更する機能を公開します。この機能はTSSのTERMINALコマンドで提供されます。

コマンド	オペランド
TERMinal	TC(端末クラス)

端末クラス：

B a s i c : 基本端末クラス
K a n j i : 漢字端末クラス
F t e r m : 富士通端末クラス

使用例

```
FNVT KYUSHU
*** FNVT START VERSION(5.1) ***
*** CONNECTED TO KYUSHU ***
@? OR @HELP ,FOR SHOWING HELP-MENU.
ENTER USERID -
A79999A
+ PASSWORD ?

KDS40613I USER(A79999A) LAST ACCESS DATE(1992.10.06),TIME(16:45:20)
KEQ56455I A79999A LOGON IN PROGRESS AT 16:46:49 ON OCTOBER 6, 1992
JOB NO = TSU4020 CN(01)
KEQ56951I NO BROADCAST MESSAGES
READY
TERM
KEQ56655I NOLINES NOSECONDS NOINPUT TIMEOUT LINESIZE(255) NOTRAN NOCHAR EDITOPT(EDIT)
CAPS EOF(/*) TC(KANJI)
READY
:
漢字端末クラスで使用(ファイル転送, PFD-TTYなど)
:
READY
TERM TC(F)
TERMINAL-CLASS IS CHANGED
READY
:
富士通端末クラス(F6683)で使用
(全てのフルスクリーンアプリケーション, グラフィックアプリケーション)
:
```

(ネットワーク掛 内線2543)

7. PHIGSCL, PHIGSGOコマンドの追加について (MSP)

10月7日(月)より以下のコマンドを追加いたしましたのでお知らせします。

【PHIGSCLコマンド】

コマンド	主なオペランド
PKSCL	データセット名 [LO(データセット名 @PHIGS@)] [PRVLIB(私用ライブラリ名)] [OPTION(コンパイラオプション)] [AE]

機能

PHIGS89を使用したFORTRANプログラムを翻訳・結合編集してロードモジュールを作成する。

オペランドの説明

- データセット名 : ソースプログラムが入っているデータセット名を指定する。
LO : ロードモジュールを作成するデータセット名を指定する。
省略すると@PHIGS@.LOAD(TEMPNAME)が指定されたものとみなす。
PRVLIB : 私用ライブラリのデータセット名を指定する。
OPTION : FORTRAN77 EXのコンパイラオプションを指定する。
AE : AEモードで翻訳する場合に指定する。

使用例

- PHIGS89のサンプルプログラムをロードモジュールにする。

```
READY  
PHIGSCL 'LIB.SAMPLE.FORT(PHIGS89)' <--- @PHIGS@.LOAD(TEMPNAME)という  
ロードモジュールが作成される
```

- PHIGS89ライブラリを組み込んだFORTRANプログラムPHIGS.FORT(METAWT)を翻訳・結合編集してPHIGS.LOAD(METAWT)というロードモジュールを作る。

```
READY  
PHIGSCL PHIGS(METAWT) LO(PHIGS(METAWT))
```

注意事項

- PHIGS89のロードモジュールは、小さなものでも32トラック程度の領域を必要とするためロードモジュール用のデータセットはそれ以上の領域を確保しておくこと。

【PHIGSGOコマンド】

コマンド	主なオペランド
PHIGSGO	データセット名 [WS(データセット名 *)] [PRVLIB(私用ライブラリ名)] [OPTION(コンパイラオプション)] [ERRFIL(機番 99)] [CONID(機番 1)] [WTYPE(番号 1)]

機能

PHIGSCLコマンドで作成したロードモジュールを実行する。

オペランドの説明

データセット名 : ロードモジュールが入っているデータセット名を指定する。

WS : ワークステーション定義ファイルを指定する。
 使用するワークステーションがPHIGS端末1台のみの場合は*でよい。

ERRFIL : POPPH呼出し時に指定したPHIGSのエラーメッセージを出力するファイル
 の論理機番を指定する。省略値は99でエラーメッセージは端末に出力される。

CONID : POPWK呼出し時に指定したワークステーションの接続識別子を指定する。
 省略値は1。

WTYPE : POPWK呼出し時に指定したワークステーション型を指定する。
 省略値は1。

使用例

•PHIGSCLの省略値で作成されたロードモジュールを実行する。

READY

PHIGSGO @PHIGS@

•PHIGS89の図形出力をメタファイルに書き出す(メタファイルの機番は2とする)。

ロードモジュールはPHIGS.LOAD(METAWT), メタファイルのデータセット名をMETA.DATA, ワークステーション型定義ファイル名をWS.DATAとする。

READY

ALLOC DD(FT02F001) DA(META.DATA) SH REU

READY

PHIGSGO PHIGS(METAWT) WS(WS.DATA)

注意事項

現在サポートしているワークステーションはPHIGS端末(F6247)と、メタファイルのみである。

メタファイルを使用する場合は、ワークステーション型定義ファイルを自分で作成し、WSオペランドで指定する。その場合ワークステーションの割当ては PHIGSGOコマンド実行前に行うこと。

備考

画面ハードコピーによって、カラープリンターへの出力が可能である。

(ライブラリ室 内線 2 5 0 9)

e-mail : f70029a@kyu-cc.cc.kyushu-u.ac.jp

8. PKSCL, PKSGOコマンドの追加について (MSP)

10月7日(月)より以下のコマンドを追加いたしましたのでお知らせします。

【PKSCLコマンド】

コマンド	主なオペランド
PKSCL	データセット名1 データセット名2 [PSP] [PRVLIB(データセット名)] [AE]

機能

PKSプログラムの翻訳・結合編集を行い、指定されたデータセット名、メンバ名でロードモジュールを作成する。

オペランドの説明

データセット名1 : ソースプログラムが入っているデータセット名を指定する。

データセット名2 : ロードモジュールを作成するデータセット名を指定する。

PSP : サブルーチン群をPSP互換モードで動作させる。

PRVLIB : 私用ライブラリを指定する。

PKSOPT : PKSのオプションを指定する。

複数のオプションを指定するときは 'オプション, オプション' の形式で指定する。

AE : AEモードで翻訳するときに指定する。

使用例

・PSPモードのライブラリを組み込んだプログラムTEST.FORT(PSP1)を翻訳、結合編集し、TEST.LOAD(PSP1)というロードモジュールを作成する。

READY
 PKSCL TEST(PSP1) TEST(PSP1) PSP

・HCBSモードのライブラリを組み込んだプログラムTEST.FORT(HCBS1)を翻訳、結合編集し、TEST.LOAD(HCBS1)というAEモードのロードモジュールを作成する。

READY
 PKSCL TEST(HCBS1) TEST(HCBS1) AE

【PKSGOコマンド】

コマンド	主なオペランド
PKSGO	データセット名 [GUNIT(論理機番 18)] [OUTDS(データセット名 GPLOT)] [MEMBER(メンバ名 GPLOT)] [GOUT(NLP OPR CLP XYPLOT NPLOT * FAX)] [NLP(出力クラス Q)] [OPR(OPR機番)] [SHEET(A4LS A5LS B4LS B5LS A4PR A5PR B4PR B5PR)] [CNTL(データセット名 *)] [PSP] [PRVLIB(データセット名)] [PKSOPT(PKSオプション)] [TEL(電話番号)] [KEEP]

機能

PKSCLコマンドで作成したロードモジュールの実行を行い、指定された出力装置に図形を出力する。

オペランドの説明

- データセット名 : 実行するロードモジュールの入っているデータセット名(メンバ名)を指定する。
- GUNT : 出力ファイル装置の論理機番を指定する。省略値は18である。ただし、PSPオペランドを指定した場合は16となる。
- OUTDS : GOUTでNPLOTまたはast\$を指定したときの出力データセット名を指定。同一名のデータセットが存在するがあいはいは消去される。KEEP指定がないときは処理後消去される。省略値はGPLOT。
- MEMBER : GOUTで*を指定したとき有効で、PLOTSサブルーチンのメンバ名を指定する。省略値はGPLOT。

- GOUT : 図形を出力する出力装置を指定する.
- NLP -- NLPに出力
 - OPR -- OPRに出力
 - CLP -- CLPに出力
 - XYPLOT -- XY-プロッタに出力
 - * -- 端末に表示
 - NPLOT -- NPLOTの入力となる形式でファイルに出力
 - FAX -- ファクシミリに出力
- NLP : NLPの出力クラスを指定する.
このオペランドは、GOUTでNLPを指定した場合にのみ有効となる。
省略値は0 .
- SHEET : OPRまたはCLPに出力する時の用紙を指定する。省略値はA4LS。
CLPに出力する場合はA4LS, A4PR, B4LS, B4PRのいずれかを指定する。
- CNTL : 印刷編集指示パラメータの入力ファイルを指定する。
*は端末から入力することを示す。
省略すると、印刷編集指示パラメータは指定されない。
- PSP : サブルーチン群をPSP互換モードで動作させる。
- PKSOPT : PKSのオプションを指定する。
複数のオプションを指定するときは 'オプション, オプション' の形式で指定する。
- TEL : GOUTでFAXを指定したときの電話番号を指定する。
国立学校費での利用の時のみ指定可能。
- KEEP : 図形出力用のデータセット(OUTDSで指定したときはそのデータセット, 省略時はGPLOT)を保存する。

使用例

- HCBSモードのロードモジュールTEST.LOAD(HCBS1)を実行し、NLPに図形を出力する。

READY
PKSGO TEST(HCBS1)

- PSPモードのロードモジュールTEST.LOAD(PSP1)を実行し、OPRに図形を出力する。
出力用紙をA4版ランドスケープとする。

READY
PKSGO TEST(PSP1) GOUT(OPR) OPR(OPR機番) SHEET(A4LS) PSP

- PSPモードのロードモジュールを実行し、端末に図形を出力する。

READY
PKSGO TEST(PSP1) GOUT(*) PSP

・HCBSモードで実行した後、NPLLOTコマンドでNLPに図形を出力する。

```
READY
PKSGO TEST(HCBS1) GOUT(NPLOT)
READY
NPLLOT GPLOT
```

(ライブラリ室 内線2509)

e-mail : f70029a@kyu-cc. cc. kyushu-u. ac. jp

9. GDPコマンドの追加について (MSP)

10月7日(月)より以下のコマンドを追加いたしましたのでお知らせします。

【GDPコマンド】

コマンド	オペランド
GDP	[DSN(データセット名 GPLOT)]

機能

GDP/EXを起動し、PKSで作成されたグラフィックファイル(GOUT(*)及び KEEPを指定したときに作成される)やEGRET1, EGRET/DRAWで作成された保存図形を端末に表示,あるいはNLPに出力する。

オペランドの説明

DSN : PKS, EGRET1, EGRET/DRAWで作成された図形ファイル名を指定する。
省略値はGPLOT。

使用例

・GPLOTに作成された図形データを端末に表示する。

```
READY
GDP          <--- GDPコマンドの入力

(画面フラッシュ後、図形が画面に表示される)

END          <--- 大文字で入力する(GDPの終了)
READY
```

・端末に表示された図形をNLPへ出力する。

READY
 LPALLOC NLP SY(U) PGM(KNGWTR) REU
 READY
 GDP

(画面フラッシュ後、図形が画面に表示される)

PRINT NLP
 印刷データが保存されました
 END
 READY
 FREE DD(NLP)

注意事項

NLP等に出力する場合は、あらかじめ出力先を割り当てておかなければならない。
 GDP/EXのサブコマンドは大文字で入力しなければならない。
 GDP/EXのサブコマンドについては参考文献を参照のこと。

参考文献

「OS IV GDP/EX説明書 V10L20用」(70SP-3651), 富士通株式会社。
 「PKS講習会資料」, 1992.

(ライブラリ室 内線2509)
 e-mail : f70029a@kyu-cc. cc. kyushu-u. ac. jp

10. 汎用統計パッケージANALYSTのSURVIVALコマンドの機能追加について (MSP)

10月12日(月)から、標記コマンドに生命表の表示抑制および、群別のケース数の表示機能が追加されました。

・入力形式

コマンド (サブコマンド)	オペランド
SURVIVAL	
{ OPTION } { OPT }	[<u>TABLE</u>] [<u>CASES</u>] [<u>NOTABLE</u>] [<u>NOCASES</u>]

・オペランドの説明

[TABLE
NOTABLE]

生命表を表示するか否かを指定する。

省略時は、TABLEが指定されたものとみなす。

TABLE : 表示する。

NOTABLE: 表示しない。

なお、本パラメタはカプラン・マイヤー法を利用する場合にのみ有効であり、生命表法での指定は無効である。

[CASES
NOCASES]

群別のケース数を表示するか否かを指定する。

省略時は、NOCASESが指定されたものとみなす。

CASE : 表示する。

NOCASES: 表示しない。

なお、本パラメタは生命表法とカプラン・マイヤー法でのグリーンウッド標準誤差によるz検定とマンテル・ヘンツェルの検定を利用する場合にのみ有効である。また、グループラベルの表示幅と度数（症例数）の表示幅をLABELパラメタの第一サブコマンドとWIDTHパラメタによって指定することができる。

(ライブラリ室 内線2509)

e-mail : f70029a@kyu-cc.cc.kyushu-u.ac.jp

11. 1992年度(平成4年度)ライブラリプログラム開発計画について

1992年度(平成4年度)後期分として承認された開発計画は下表の通りです。

開発番号	課題名	開発者(所属)	開発期間	開発時間	備考
23-1	デバイスシミュレータ MINIMOSの移植	黒木幸令 九州大学工学部 電子工学科	1992 10.5 ～ 1993 3.31	240分	新規

(ライブラリ室 内線2509)

e-mail : f70029a@kyu-cc.cc.kyushu-u.ac.jp

12. 特殊機器利用説明会の開催について

標記説明会を下記の要領で開催いたします。希望者は、当日2階受付（事前の申込は必要ありません）にお集まりください。

なお、6月19日（金）に開催した説明会と同じ内容です。

記

- ・日 時 11月5日（木） 14時00分 ～ 16時00分
- ・集合時間 13時50分
- ・対 象 センター利用者
- ・内 容 磁気テープ（MT）装置，カートリッジ磁気テープ（CMT）装置の操作方法。
磁気テープ（MT），カートリッジ磁気テープ（CMT）とディスク間のデータ転送方法。
（共に，汎用コンピュータ〔MSP〕での操作）
- ・会 場 大型計算機センター・2階オープン室
- ・講 師 システム管理掛 山寄 信広， 川寄 正子
- ・テキスト センターで用意
- ・時間割

14:00

16:00

・基礎知識の説明	・装置の取扱い ・ジョブの実行
----------	--------------------

（共同利用掛 内線2532）